



「逃げる二月」を迎えるにあたり

副校長 國司 香織

昔からの言い回しに、「一月往ぬる(いぬる) 二月逃げる 三月去る」というものがあります。「正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎていくことを調子よく表したもの」ですが、私はこの時期になると毎年この言い回しを思い出し、実感するとともに、「分かっているのだから気を引き締めていこう」「時間を大切にしていこう」と思いを新たにします。

6年生の教室にカウントダウンカレンダーが飾られています。「卒業まであと35日!」この数字を多く感じるか少なく感じるかは人それぞれではありますが、「一月往ぬる 二月逃げる 三月去る」を学校内で一番強く実感するのは、6年生とその担任ではないかと思います。

6年生は、年末に一生の記念となる「卒業文集」の作成に取り組んでいました。自分の思いを609字という枠の中に精一杯込めるために、何度も見直しながらかき進んでいました。文字数に制限があるため、句読点の位置や漢字で書くかひらがなにかなど、一字一句にこだわって考えるよい経験となったのではないかと思います。仕上がった作品を見る機会をいただき、読ませてもらいました。将来の夢、小学校での思い出、頑張っていることなど、一人一人の子どもたちの個性が表れていて、感心することが多かったです。「こんなことを思っているんだな。」と驚かされることもありました。また、友達へ、保護者の方へ、先生へと感謝の気持ちを綴ったものもあり、温かな気持ちにしてみらう時間となりました。

数年後、もしくは数十年後に見直して、書くのに苦労したこと、12歳の自分が思っていたことなどを思い出し懐かしく振り返ってくれるといいなと願います。そして、この卒業文集(アルバム)が気持ちを温かくしたり、何か行動するきっかけになったりすると嬉しいです。

千秀小学校の学校教育目標は、「自分で考え 表現し 挑戦し続ける子」です。卒業文集を作成する工程もまさに「自分で考え 表現し」の部分を生かした活動だと思っています。6年間この千秀小学校で学び、生活した子どもたちの根底に「自分で考え 表現し」の力が育ち、さらに「挑戦し続ける子」であり続けてくれることを信じています。

1から5年の在校生は、残りの年月をかけて、よりこの教育目標を体現する子どもたちとなるように、教職員一同で授業をとおしてはもちろん、日常生活においても試行錯誤しながら取り組んでいきたいと考えております。今後ともご理解とご協力のほどをよろしくお願いいたします。